

一般社団法人 日本原子力学会
第 66 回 標準委員会 (SC) 議事録

- 1 日時 2016 年 9 月 13 日 (火) 13:30~19:10
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (敬称略) (開始時)
 - (出席委員) 関村委員長, 伊藤 (途中から入室 (田村代理と交代)), 井口, 岡本 (太), 河井, 清水, 高橋, 多田, 鶴来, 中井, 新堀, 萩原, 藤森, 本間 (途中から退室), 吉原, 渡邊 (延べ 16 名)
 - (フェロー委員) 宮野 (1 名)
 - (代理出席) 成宮祥介 (関西電力/山口), 波木井順一 (東京電力/姉川), 中村武彦 (日本原子力究開発機構/岡本 (孝)), 田村 明男 (原子力安全推協会/伊藤) (途中から伊藤委員と交代), 鈴木理一郎 (原子燃料工業/西野) (延べ 5 名)
 - (欠席委員) 青柳, 小原, 大鳥, 越塚, 寺井, 上田, 谷本 (7 名)
 - (欠席フェロー) 成合 (1 名)
 - (委員候補) 成宮祥介 (関西電力) (1 名)
 - (欠席常時参加者) 鈴木 (1 名)
 - (代理常時参加者) 藤井英明 (原子力規制庁/山中) ((1 名)
 - (説明者) 【LLW 埋設後管理分科会】吉原幹事, 【PLM 分科会】中川幹事, 【レベル 3PRA 分科会】本間主査, 成宮幹事, 【LLW 処分安全評価分科会】山本幹事, 中居委員, 【放射線遮蔽分科会】平尾幹事, 【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】都筑幹事, 田中委員, 【クリアランスレベル検認分科会】沼田元幹事, 【標準活動基本戦略タスク】伊藤副主査, 河井幹事, 鶴来委員, 高橋委員, 中越事務局, 【風洞実験実施基準分科会】伊藤幹事, 沼田常時参加者, 【リスク専門部会】成宮幹事, 【レベル 1PRA 分科会】橋本幹事, 【原子力安全検討会】成宮幹事 (延べ 20 名)
 - (事務局) 中越, 井関, 谷井 (3 名)
- 4 配布資料:
 - SC66-0 第 66 回標準委員会議事次第 (案)
 - SC66-1 第 65 回標準委員会議事録 (案)
 - SC66-2-1 人事について (標準委員会)
 - SC66-2-2 人事について (専門部会)
 - SC66-3 “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の管理方法 (案): 201X” の公衆審査結果について
 - SC66-4-1 “原子力発電所の高経年化対策実施基準” 改定案 (追補 1) の公衆審査結果について
 - SC66-4-2 “原子力発電所の高経年化対策実施基準” 改定案 (追補 1) の修正
 - SC66-5-1 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準 (レベル 3PRA 編): 201X” 改定案の標準委員会決議投票結果について
 - SC66-5-2 “原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準 (レベル 3PRA 編) 201X” 改定案の標準委員会決議投票における意見への対応表

- SC66-5-2 別紙原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：
201X
- SC66-6-1 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の標準委員会決議投票結果について
- SC66-6-2 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の標準委員会決議投票における意見への対応表
- SC66-6-3 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の標準委員会決議投票における意見への対応に基づく標準修正案（本体，解説）
- SC66-7 “放射線遮へい計算のための線量換算係数：2010”改定要否検討結果について
- SC66-8 “トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010”の改定要否検討結果について
- SC66-9 クリアランスの判断方法：2005（AESJ-SC-F005：2005）の正誤表（訂正案）
- SC66-9 添付クリアランスの判断方法：2005（AESJ-SC-F005：2005）の正誤表（訂正前）
- SC66-10-1 標準活動基本戦略タスク 2016 度第二回議事録（案）
- SC66-10-2 標準委員会活動全体計画（案）（年間工程表）
- SC66-10-3 標準委員会の活動基本方針に関する意見募集結果への対応について
- SC66-10-4 用語辞典に関する意見募集結果への対応について
- SC66-10-5 標準の英訳の優先について
- SC66-10-6 倫理規程の周知徹底について
- SC66-10-7 標準作成の手引きの改定について
- SC66-10-8 標準活動基本戦略タスク及び 3 学協会での学協会規格整備計画の検討状況（その 19）
- SC66-11-1 発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準の改定について（中間報告）
- SC66-11-2 風洞実験実施基準 新旧比較表
- SC66-12 “原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の標準委員会決議投票結果について
- SC66-13 リスク専門部会の活動実績と今後の取組：2016
- SC66-14 JIWG にかかる状況報告及び JIWG 向け資料について
- SC66-15 誤記チェックの結果について（レベル 1PRA 分科会）
- SC66-16 専門部会活動状況報告
- SC66-17 標準委員会の活動状況
- SC66-18 原子力安全検討会の活動状況

参考資料

- SC66-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC66-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて（案）

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員（フェロー委員含め）29 名中、21 名の出席があり、委

員会成立に必要な委員数（20 名以上）を満足している旨、報告された。

（1）前回議事録の確認（SC66-1）

前回議事録（案）について配付されていた案で承認された。

(2) 人事について (SC66-2-1, SC66-2-2)

事務局配付資料の SC66-2-1, SC66-2-2 に基づいて、標準委員会、専門部会の人事について以下の提案があった。

なお、人事案件は、対象者の退席を得て、委員のみの自由討議を経て、審議される。

a. 標準委員会人事

① 理事会による委員選任承認及び委員再任承認の確認

- ・選任：新堀 雄一（東北大学）（原子燃料サイクル専門部会長）
- ・再任：西野 祐治（原子燃料工業）
青柳 春樹（学識経験者）
吉原 健介（関西電力）
伊藤 裕之（原子力安全推進協会）

② 委員選任及び専門部会、分科会・作業会の委員との委員重複の承認決議

成宮 祥介（関西電力）（リスク専門部会，レベル 2PRA 分科会，レベル 3PRA 分科会，PRA 品質確保分科会，外的事象 PRA 分科会，地震 PRA 作業会，津波 PRA 作業会，定期安全レビュー分科会）

③ 委員再任の決議

- 山口 彰（東京大学）
- 寺井 隆幸（東京大学）
- 河井 忠比古（原子力安全推進協会）

委員の選任承認等が確認され、審議の結果、委員の選任等が決議された。

b. リスク専門部会

① 委員退任の確認

- 松本 精二（日本エヌ・ユー・エス）
- 山中 康慎（東京電力ホールディングス）

② 委員選任の承認決議

- 井田 三男（日本エヌ・ユー・エス）
- 糸井 達哉（東京大学）
- 喜多 利亘（東京電力ホールディングス）

③ 委員再任の承認決議

- 山口 彰（東京大学）
- 成宮 祥介（関西電力）
- 岡本 孝司（東京大学）
- 越塚 誠一（東京大学）
- 桐本 順広（電力中央研究所）
- 栗坂 健一（日本原子力研究開発機構）
- 吉田 一雄（日本原子力研究開発機構）
- 倉本 孝弘（原子力エンジニアリング）
- 曾根田 秀夫（日立 GE ニュークリア・エナジー）
- 竹山 弘恭（中部電力）

委員の退任が確認され、審議の結果、委員選任の承認等が決議された。

c. システム安全専門部会

- ① 委員退任の確認
小野岡 博明（関西電力）
福谷 耕司（原子力安全システム研究所）
- ② 委員選任の承認決議
真寄 康行（関西電力）
中村 晶（原子力安全システム研究所）
- ③ 委員再任の承認決議
中村 武彦（日本原子力研究開発機構）
阿部 弘亨（東京大学）
勝村 庸介（日本アイソトープ協会）

委員の退任が確認され、審議の結果、委員選任の承認等が決議された。

d. 基盤応用・廃炉技術専門部会

- ① 委員退任の確認
沼田 邦夫（日本原子力発電）（風洞実験実施基準分科会，有効高さシミュレーション分科会代表者）
伊藤 英一郎（東京電力ホールディングス）
藤井 大士（関西電力）
上野 信吾（三菱総研）
- ② 委員選任の承認決議
伊藤 博英（日本原子力発電）（風洞実験実施基準分科会，有効高さシミュレーション分科会代表者）
三本木 満（東京電力ホールディングス）
伊藤 肇（関西電力）
松本 昌昭（三菱総研）
- ③ 委員再任の承認決議
萩原 剛（東芝）
越塚 誠一（東京大学）
吉田 啓之（日本原子力研究開発機構）
山口 彰（東京大学）
岡本 孝司（東京大学）
堺 公明（東海大学）
坂本 幸夫（アトックス）
日比 宏基（三菱FBRシステムズ）
西田 浩二（日立GEニュークリア・エナジー）
宮坂 靖彦（原子力研究バックエンド推進センター）

委員の退任が確認され、審議の結果、委員選任の承認等が決議された。ただし、会議後に有効高さシミュレーション分科会は有効高さ評価モデル分科会の誤りであること及び伊藤 博英（日本原子力発電）氏は有効高さ評価モデル分科会代表者にまだ選出されていないことが判明した。

e. 原子燃料サイクル専門部会

- ① 委員退任の確認
仙波 毅（原子力安全推進協会）

- 平井 輝幸（電気事業連合会）
- ② 委員選任の承認決議
田村 明男（原子力安全推進協会）
古谷 誠（電気事業連合会）
- ③ 委員再任の承認決議
柳原 敏（福井大学）

委員の退任が確認され、審議の結果、委員選任の承認等が決議された。

f. 標準委員長の互選

関村委員長の任期が2016年9月25日で2年の満期となるため、運営細則第5条1. 委員長の（3）“委員長の任期は2年とし、再任は4回までとする。”の規定に基づき、互選による委員長の選出投票を行った。投票の結果、出席委員総数19名の過半数である10名以上の得票である18票を得、関村現委員長が再任された。副委員長及び幹事については次回指名することとなった。

投票総数	19票
関村	18票
白票	1票

（3）【報告・審議】“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の管理方法（案）：201X”改定案の公衆審査結果について（SC66-3）

LLW埋設後管理分科会の吉原幹事からSC66-3に基づいて、“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の管理方法（案）：201X”改定案は公衆審査で意見がなかったことが報告された。審議の結果、当該標準は制定された。

（4）【報告・審議】“原子力発電所の高経年化対策実施基準”改定案（追補1）の公衆審査結果および改定案の修正について（SC66-4-1，SC66-4-2）

事務局からSC66-4-1に基づいて、“原子力発電所の高経年化対策実施基準”改定案（追補1）は公衆審査で意見がなかったことが報告された。引続きPLM分科会の中川幹事からSC66-4-2に基づいて、“原子力発電所の高経年化対策実施基準”（2015）の誤記確認結果（正誤表案）及び当該標準改定案（追補1）の修正案について報告があった。審議の結果、“原子力発電所の高経年化対策実施基準”（2015）の正誤表案を学会インターネットホームページで公開すること及び当該標準改定案（追補1）の修正案は編集上の修正であること並びに修正案で制定することが決議された。

また、今回の誤記確認で正誤表の対象にはならなかった事項についても、次回改定時には確実に対応することが確認された。

（5）【報告・審議】“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X”改定案の標準委員会決議投票結果について（SC66-5-1，SC66-5-2，SC66-5-2別紙）

事務局からSC66-5-1に基づいて、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X”改定案は標準委員会決議投票で可決されたことが報告された後、引続きレベル3PRA分科会の本間主査、成宮幹事からSC66-5-2，SC66-5-2別紙に基づいて、決議投票で受付けた意見に対する対応案が報告された。審議の結果、対応案は編集上の修正であること及び対応案で1か月間の公衆審査に移

行することが決議された。

質疑等は以下のとおり。

Q：適用範囲の水系にかかる記載は、趣旨は理解するが、文章がやはりしっくりこない。水系への放出、ではなく水系への移行、とすればどうか？

A：“なお、水系への放射性物質が移行する事故シーケンスについては対象外とする（解説 3 参照）。”ではどうか？

Q：解説 3 との関係も見ろべきだ。

A：では事故シーケンスと記載しない表現にして、“なお、水系への放射性物質の移行については対象外とする（解説 3 参照）。”とする。

Q：“まえがき”の下から二段落目の 2 行目。文が長く、かつ接続詞“が”の意味がないので、区切ること。

A：拝承。”今回の改定は、2009 年に発行した“原子力発電所の・・・5 年を経過したことから改定するものであります。改定に当たっては米国・・・”とする。

(6)【報告・審議】“浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の標準委員会決議投票結果について（SC66-6-1, SC66-6-2, SC66-6-3）

事務局から SC66-6-1 に基づいて、“浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”は標準委員会決議投票で可決されたことが報告された後、引続き LLW 処分安全評価分科会の山本幹事、中居委員から SC65-6-2, SC66-6-3 に基づいて、決議投票で受付けた意見に対する対応案が報告された。審議の結果、対応案は原子燃料サイクル専門部会へ差戻されることとなった。

なお、分科会及び専門部会で検討した結果は、この標準委員会で意見を出された標準委員に事前に提示し、その了解を得た上で、本年 12 月の第 67 回標準委員会に諮るようとの標準委員長の指示があった。

質疑等は以下のとおり。

Q：対応表の No.6 で、許可基準規則解釈等の引用だからとして現状のままとしているが、“放射能障害を及ぼさないように 5mSv 以下にする”等の記載にできないか。

A：この記載の前半は、許可基準規則の中で要件として挙げているもので、後半はその要件の説明を解釈から引用しており、この流れを尊重して、現状の記載を維持したい。

・了解した。

Q：箇条 5 の安全評価における考慮事項で述べている評価期間は重要なキーワードであると思うが、用語の定義をしておく必要はないか。

A：浅地中処分では管理期間終了以後において最大線量が出現するまでの期間を評価期間としており、この標準でも用語の定義はせずに本文で評価期間の説明を示した。

・了解した。

Q：適用範囲の記述で、“主として”は、あいまいな規定になるので削除すべきとの指摘に対して、他の JIS でも“主として”の表現を使っているので現状維持としているが“主として”は削除して、なお書きで他に適用できる例を示すべき。

A：JIS の Z シリーズには、適用範囲に“主として”は使われていることでもあり、あえて削除しなくてもよいと思う。

C：それは間違い。現行で改定されている JIS では、“主として”は絶対に使ってはな

らない。使ってはいけない言い方の例としても示している。原子力学会標準では、適用範囲は明確に示すべき方針であり、“主として”を入れると明確な表現にはならない。

A：この適用範囲の“主として”がかかるのは、すぐあとに続く許可基準規則及び同解釈であり、処分関連の新規制基準や放射線防護規定等が登場した場合に、それらの法令等が適用される処分においても、この標準の安全評価手法が適用される得ることを示すために、“主として”を入れたが、標準委員会のご意見を拝承して、“主として”は削除することとしたい。削除するとして、末尾の“定期的な評価にも適用できる”は残してもよいか。

A：定期的な評価等に適用できるという記載は残してよい。

Q：1頁の 3.10 地質環境の定義では、OECD/NEA の FEP の定義からの引用として現行案のままとしているが、NEA の原文を見ると特性・進展と地質環境の語句を用いて FEP の説明をしているが、Glossary (用語解説) では、これらをまったく同じものとして扱っているようには読みとれない。“地質環境”というある場所を、“特性(features)及び時間的な進展(processes)”と定義しているのには違和感がある。

A：ここで features を特性と訳しているのだから違和感を持たれると思うが、features は、単に地質の性質や特性のことを言っているのではなく、具体的には天然バリアと人工バリアの実態とそれらの時間的な変遷を指している。Features がそのような幅広い概念を持つと考えれば、地質環境の定義に用いても不自然ではないと思う。

A：専門部会でも議論になったが、ここで地質環境を何々の環境と定義してしまうと、何を示すかわからなくなるという問題があり、NEA の特性及び時間的な進展という言葉で定義に引用して地質環境の意味するところが明確になる定義にしている。

C：標準委員の中に納得されていない方がいるので、この地質環境の定義を含め現状のままでは、委員会として書面投票対応案を承認できない。

C：対応表の 3 頁目の評価期間についても、最大ピークは計算過程で容易に判断できるとしているが、現行案のままにするならより丁寧な解説が望まれる。

C：標準委員会としては、この書面投票対応案を承認できないので、決議はとらないこととし、専門部会等で再検討して、もう一度、対応案を出していただきたい。その際には、書面投票時及び本日の席上で意見を出された標準委員にコメントを反映した対応案を事前に見ていただき、承諾されたものを次の標準委員会で提示していただきたい。

A：拝承。

C：その対応で標準を修正することになるなら、合わせて専門部会委員名簿、標準委員会名簿等をチェックして最新のものにしていただきたい。

A：拝承

(7)【報告・審議】“放射線遮へい計算のための線量換算係数:2010”改定要否検討結果について (SC66-7)

放射線遮蔽分科会の平尾幹事から SC66-7 に基づいて、“放射線遮へい計算のための線量換算係数:2010”改定要否検討結果(改定不要)について報告があり、結果は了承された。

質疑等は以下のとおり。

Q：改定不要の理由について、ICRPの外部動向に依るといっただけでは消極的である。
例えば、動向をウォッチして何かプラスになることを学会標準として反映する必要があり、その改定作業をこれから開始するといった積極的な活動の意義を求めたい。

A：拝承。分科会では、国内施設の遮蔽要件をふまえた合理的な線量換算係数データの標準化と国内法令への取り入れに関する提言を積極的に行う予定である。それについて検討結果に追記する。

(8)【報告・審議】“トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法:2010”の改定要否検討結果について (SC66-8)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会の都筑幹事、田中委員から SC66-8 に基づいて、“トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法:2010”の改定要否検討結果(改定不要)について報告があり、結果は了承された。

なお、今後のトレンチ処分に係る規制基準の改正等の新知見を取り入れ、本標準を改定する意向が示されたことから、標準委員会としての決議は実施しないことで改定不要が了承された。

(9)【報告・審議】“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)”の正誤表の訂正について (SC66-9，SC66-9添付)

クリアランスレベル検認分科会の 沼田元幹事から SC66-9，SC66-9添付に基づいて、“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)”の正誤表の訂正案について報告があり、審議の結果、訂正案は了承され、今後このような正誤表の訂正の防止策について標準活動戦略タスクで検討することとなった。

質疑等は以下のとおり。

Q：今回の訂正は重要度分類のカテゴリの何れに相当するのか？

A：少なくともNo.3の訂正については③（活用上問題がない誤記）と考える。

Q：標準活動戦略タスクではこのような正誤表が更に間違えることについての対策をとっていたのか？

A：審議要領では記載されていない。

Q：どのようなプロセスでこのような間違いになったのか？

A：転記ミスである。

(10)【報告・審議】標準活動基本戦略タスクの活動状況

①標準活動基本戦略タスク 2016 度第二回議事概要について(報告) (SC66-10-1)

標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査から SC66-10-1 に基づいて、標準活動基本戦略タスク 2016 度第二回議事概要について報告があり、当該議事概要は了承された。

②標準委員会活動全体計画(案)について(報告) (SC66-10-2)

標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査から SC66-10-2 に基づいて、標準委員会活動全体計画(案)について報告があり、当該計画は了承された。

③標準委員会の活動基本方針に関するコメント対応について(審議) (SC66-10-3)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC66-10-3 に基づいて、標準委員会の活動基本方針に関するコメント対応について審議が行われ、コメント対応は了承された。

なお、規程の改定については、学会理事会及び標準活動運営委員会での審議を経る

必要があることが報告された。

④用語辞典に関するコメント対応について(審議) (SC66-10-4)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC66-10-4 に基づいて、用語辞典に関するコメント対応について審議が行われ、コメント対応は了承された。

⑤標準の英訳の優先について(審議) (SC66-10-5)

標準活動基本戦略タスクの鶴来委員から SC66-10-5 に基づいて、標準の英訳の優先について審議が行われ、了承された。

⑥倫理規程の周知徹底について(報告) (SC66-10-6)

標準活動基本戦略タスクの高橋委員から SC66-10-6 に基づいて、倫理規程の周知徹底について報告があり、了承された。

⑦標準作成の手引きの改定について(審議) (SC66-10-7)

標準活動基本戦略タスクの中越事務局から SC66-10-7 に基づいて、標準作成の手引きの改定について審議が行われ、“制定年月”を“制定又は改定年月”にしたほうが適切ではないかとの意見がだされ、他の記載箇所との整合がとれた形で反映することで改定が了承された(反映箇所については、事務局一任)。

⑧3学協会での学協会規格整備計画の検討状況(報告) (SC66-10-8)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC66-10-8 に基づいて、3学協会での学協会規格整備計画の検討状況について報告があり、了承された。

⑨2016秋の年会の企画セッションの実施状況(報告) (SC66-19)

各セッションの関係者から SC66-19 に基づいて、3セッション“リスクをどのように活用し安全性向上につなげるか”、“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の管理方法”：201X 改定標準案の概要について”及び“IAEA IRRS ミッション報告を受けた対応について”の実施状況について報告があり、了承された。

(11)【中間報告】発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準の改定について (SC66-11-1, SC66-11-2)

風洞実験実施基準分科会の伊藤幹事、沼田常時参加者から SC66-11-1, SC66-11-2 に基づいて、“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”の改定についての中間報告があった。

質疑等は以下のとおり。

- ・新知見を取り込んだ附属書 A 図 A.1(上空煙源の場合の構造物の影響度)の根拠は示されているか。
⇒大気関係のジャーナルに発表した文献を参考文献とした。
- ・参考文献にメーカー技報等が見られる。電力共研報告書を参考文献にしている例などは、手前味噌になっているおそれもあるので、重要なものは出来る限り査読を受けたようなものを参考文献として示すことが望ましい。

(12)【報告】“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の標準委員会決議投票結果について (SC66-12)

事務局から SC66-12 に基づいて、“原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の標準委員会決議投票結果の結果、可決されたことが報告された。

(13) 【報告】“リスク専門部会の活動実績と今後の取組：2016”について (SC66-13)
リスク専門部会の成宮幹事から SC66-13 に基づいて、リスク専門部会の活動実績と今後の取組：2016 について報告があった。

質疑は以下のとおり。

Q：他の専門部会からもこのような報告書を出すことを提案しているのか？

A：そこまでは求めているが、リスク専門部会としては第3版となり、学会大会のセッションで配布させてもらった。

C：他の専門部会でも作ってほしい。それをまとめれば標準委員会活動レポートになる。

(14) 【報告】ASME/ANS JCNRM JIWG の開催について (SC66-14)

リスク専門部会の成宮幹事から SC66-14 に基づいて、ASME/ANS JCNRM JIWG の開催について報告があった。

質疑は以下のとおり。

C：提出した資料はすべて ASME の所有になるので注意すること。

A：了解している。提出資料はリスク専門部会で了解を取っていく。

Q：議論の結果は報告してほしい。

A：了解。非公開の会議なので配布資料は無理だが、議事概要は報告する。

(15) 【報告】誤記チェックの結果について (レベル1PRA 分科会) (SC66-15)

レベル1PRA 分科会の橋本幹事から SC66-15 に基づいて、誤記チェックの結果について報告があった。

(16) 原子力安全検討会の活動状況 (SC66-18)

原子力安全検討会の成宮幹事から SC66-18 に基づいて、原子力安全検討会の活動状況報告があった。

質疑は以下のとおり。

C：これらの活動を IAEA の会合へ出すくらいのことを考えてほしい。

6 その他 (次回日程)

次回は 2016 年 12 月 7 日(水) 13:30 から

以上